

平成18年度 せたな町普通会計

バランスシートを公表します

「バランスシート」
（貸借対照表）とは…

地方公共団体におけるバランスシート（貸借対照表）とは、作成基準日現在に町が保有するすべての資産（施設や道路などの財産）、負債等の状況を一目でわかるように表示したものです。

バランスシートでは、表の左側（借方）には資産が、右側（貸方）には負債と正味資産が表示されており、資産＝負債＋正味資産となります。

なお、地方公共団体のバランスシートには、民間企業における「資本」という概念がなく、「正味資産」と表現し、これまでの世代がすでに負担した金額を表しています。また、負債は、これからの世代が今後負担していく金額を表しています。

平成18年度 せたな町バランスシート （平成19年3月31日現在）

借方 （資金をどんな資産に変えたのか）		貸方 （資金をどこから調達したのか）	
[資産の部]		[負債の部]	
①有形固定資産⑤		①固定負債	
1 総務費	35億3,512万円	1 地方債①	139億7,500万円
2 民生費	15億3,934万円	2 債務負担行為	0万円
3 衛生費	3億6,997万円	3 退職給与引当金②	18億1,115万円
4 労働費	2,376万円	固定負債合計	157億8,615万円
5 農林水産業費	70億2,399万円	②流動負債	
6 商工費	18億9,237万円	1 翌年度償還予定額③	16億4,146万円
7 土木費	135億3,649万円	2 翌年度繰上充用金	0万円
8 消防費	1億8,490万円	流動負債合計	16億4,146万円
9 教育費	65億4,709万円	負債合計	
10 その他	1,458万円		174億2,761万円
有形固定資産合計	346億6,761万円	[正味資産の部]	
（うち土地	42億2,694万円）	1 国庫支出金	70億5,781万円
②投資など		2 道支出金	47億7,814万円
1 投資及び出資金⑥	17億5,734万円	3 一般財源など	89億273万円
2 貸付金	1,699万円	正味資産合計④	207億3,868万円
3 基金⑦	12億364万円		
4 退職手当組合積立金	△1億327万円		
投資など合計	28億7,470万円		
③流動資産			
1 現金・預金⑧	5億3,384万円		
2 未収金⑨	9,014万円		
流動資産合計	6億2,398万円		
資産合計	381億6,629万円	負債・正味資産合計	381億6,629万円

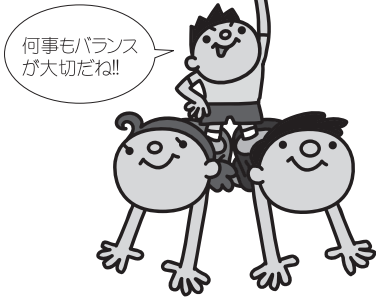
※総務省が示した基準に基づき作成しています。

もっと分かりやすく例えると…

一世帯あたりのバランスシート（平成19年3月31日現在 4,698世帯）

借方＝資産		貸方＝負債＋正味資産	
有形固定資産＝マイホームや土地、車など	738万円	負債＝マイホームなどのローン残高	371万円
投資など＝定期預金など	61万円	正味資産＝資産取得のための自己資金	441万円
流動資産＝現金や普通預金	13万円		
計	812万円	計	812万円





- ①公共施設や学校などを建設するために国などから借りたお金で、1年以上の期間をおいて返さなければならぬお金です。
- ②年度末に全職員が自己都合により退職すると仮定した場合に支払わなければならない退職金総額です。
- ③国などから借りているお金で、1年以内に返さなければならぬお金です。
- ④資産を取得するために使ったお金のうち、国や道からの補助金、税金などの総額です。これらのお金は返済する義務がないため正味資産（純資産）とします。
- ⑤土地、建物など一会計年度を超えて行政サービスを提供するために使用される資産のうち、有形であるもの。土地を除いては減価償却しています。
- ⑥檜山広域行政組合などの関係団体への出資金や災害援護資金などの貸付金があります。
- ⑦「社会福祉基金」や「担い手育成基金」などの年度間で流動性の低い基金（貯金）です。
- ⑧「財政調整基金」や「減債基金」など年度間で流動性の高い基金（貯金）です。
- ⑨町税や使用料などのうちまだ収入されていないお金です。

「バランスシート」からわかること

■社会資本形成の世代間負担比率

公共施設等の社会資本（資産）の形成が、どの世代の負担に多く頼っているのかを表し、①これまでの世代がすでに負担した金額の割合よりも、②これからの世代に負担してもらうこととなる金額の割合の方が低いことが望ましいと言われています。

①これまでの世代がすでに負担した金額の割合

$$\frac{\text{正味資産合計}}{\text{有形固定資産合計}} \times 100 = \frac{207\text{億}3,868\text{万円}}{346\text{億}6,761\text{万円}} \times 100 = 59.8\%$$

②これからの世代に負担してもらうこととなる金額の割合

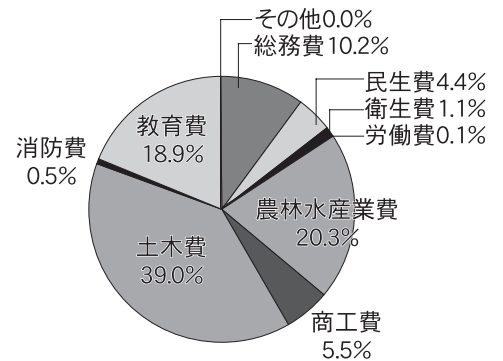
$$\frac{\text{負債合計}}{\text{有形固定資産合計}} \times 100 = \frac{174\text{億}2,761\text{万円}}{346\text{億}6,761\text{万円}} \times 100 = 50.3\%$$

※将来の負担を考えると、②の割合が低い方が望ましい

■有形固定資産の行政目的別割合

有形固定資産に対する目的別の割合は、土木費が39.0%と全体の約4割近くを占めています。これは道路や港湾を整備したことによるものです。次に農林水産業費が20.3%で産業振興基盤を整備したことによるものです。また、教育費においては学校等の教育施設の整備によって割合が高くなっています。

目的	主な事業内容	金額	割合
総務費	庁舎など	35億3,512万円	10.2%
民生費	保育所、福祉施設など	15億3,934万円	4.4%
衛生費	健康センター、保健センターなど	3億6,997万円	1.1%
労働費	労働関係施設など	2,376万円	0.1%
農林水産業費	農業基盤整備、林道、漁港など	70億2,399万円	20.3%
商工費	キャンプ場などの観光施設	18億9,237万円	5.5%
土木費	道路や港湾など	135億3,649万円	39.0%
消防費	防災行政無線、災害用備蓄庫など	1億8,490万円	0.5%
教育費	学校やプールなど	65億4,709万円	18.9%
その他	その他の公共施設整備	1,458万円	0.0%
合計		346億6,761万円	100.0%



平成18年度のバランスシートを見ると、資産と負債・正味資産の金額は、三百八十一億六千六百二十九万円と多額になっていますが、資産のうち有形固定資産は売却の難しい道路や学校などの資産がほとんどを占めており、すぐ使える流動資産は六億二千三百九十八万円と全体の1.6%ほどしかありません。一方、負債は百七十四億二千七百六十一万円となっており、貸方全体の45.7%と高い割合を占めています。この負債は将来返済しなければならぬお金です。

また、負債の約8割は地方債が占めています。この地方債は、長い期間使用する施設などの建設費用を翌年度以降に使う人にも負担してもらうために複数年にわたって返済するという目的もあります。こうすることにより行政サービスの公平と利用者負担の平準化が図られる仕組みとなっていますが、できることなら将来への負担は少ないほうが理想です。そのため、せitan町では事務事業や大型事業の見直しを図っているところです。